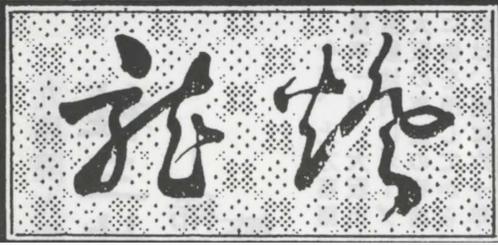


第 80 号



発行所

大阪市史跡 龍溪禪師墓所 靈龜山 九島院
〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号
TEL 06 (6583) 2725 FAX 06 (6583) 0908

発行者

第七五代住職 奥田 啓知 (智證)

当院は、阪神なんば線で、なんばから7分です。

『九島院の謎に迫る (その二)』

興禅庵と一柳家

ひとつ やなぎ

一柳家の過去帳(興禅菴 靈龜山)には、永泰貞大和尚(号保辛丑六年六月廿二日寂)の添書に「興禅菴号讓道翳士(興禅菴号を道翳士に讓る)」とあり、

永泰和尚が一柳家二代目の一峰道翳居士(正徳五乙未九月廿七日歿)に興禅菴を讓った事が判ります。これ以降、興禅菴は一柳家で代々護持されてきました。過去帳の奥付は寛政元年の八代慧性尼とあり、その他何人かの和尚名が載っていますが、興禅菴何代との添書きがありません。

九島院の歴代住持で黄檗宗鑑録に記載されていない和尚が、五代瑠州・六代雄峰・十代湛堂・十一代鉄杖とあり、当時の嗣法は難しく住持の資格を取れない和尚も多く存在し、これらの僧も興禅菴の住持を兼務したのでは。過去帳に載っている和尚名から仮に歴代菴主を考察すると、初代は龍溪老和尚、一二代は不明。四代永泰和尚、五代大拙和尚、六代大随和尚、七代萬宗和尚と該当し、大随和尚は一峰道翳居士の孫にあたります。また、慧性尼はおそらく、大随和尚の二代下った曾孫にあたるのでは。過去帳が一日から五日まで欠損しているため、慧性尼の両親と大随和尚の関係

に確証はありませんが、これら和尚のうち永泰和尚・大拙和尚は九島院の四代・七代住職です。このように、九島院と興禅菴は一如の関係でした。

『黄檗文化人名辞典』によると永泰和尚については、「龍溪性潜の猶子とあり、幼少より仏門に入つて、明暦元年九月隠元が龍溪に請われ、摂津普門寺に入寺したとき僅かに四歳であったという・・・」との記述があります。

猶子とは、漢和辞典によると、①わが子と同様②兄弟の子。甥・姪③養子とあります。すると、龍溪禪師の正嫡で、なんらかの理由で猶子にしたのではないか。慶瑞寺文書のなかに、『扶持米請取書付田地精算書』が残されており、九条村吉兵衛(庄屋)より龍溪様侍者御中自寛文八年(一六六八)正月至同九月正月とあり、摂津富田から離れた九条村に、龍溪名義の田畑が存在する事実は、幼い永泰和尚の養育の為、九条村関係者が寄進したのではとも推察できる。

永泰和尚の出自が不明なのは、龍溪禪師自身の出自について、龍燈60号で発表したように「角倉了以の娘が阿刀家に嫁ぎ、生まれた双子の弟が禪師で、出自を隠した」との角倉・阿刀両家の口伝と何らかの関係があり、禪師の出自を隠すため、永泰和尚



龍溪禪師庵『浪速叢書 蘆分船』より

一柳家は、初代の教順居士(寛文十一年歿)に、葭屋寺西氏中興元祖との付記があります。代々の当主は葭屋安右衛門と名乗っており、一柳姓を名乗るのは、明治二年、六代安右衛門からです。

葭屋については、文政八年『浪華持丸長者控』前頭に親先・葭屋傳右工門が、「西成郡史」には、現在の大坂ドームあたりに岩崎新田を開拓した九条村住民葭屋仁右工門、など古文書にある有力な豪商の一人だったので。『本田地誌』には、「日本國史資料叢書」に西成郡九條村の名族と記した葭谷氏は一柳元次郎氏の祖ならんか・・・との記述もあります。明治8年(一八七五)「苗字必称義務令」で寺西姓を名乗らず、一柳姓を名乗ったのか。戦前、一柳(ひとつやなぎ)子爵家の当主が自家の本家に訪ねてこられたとの口伝もあり、大名の一柳家とも何らかの関係があったようです。

黄檗宗寺院巡り④ (北大阪編)

摩耶山 佛日寺

麻田藩の菩提寺

摩耶山佛日寺

(住職作)

摩耶山畔訪梅花
枝上鶯聲靜更嘉
壹十六墳塋樹下
藩侯遺業向誰誇

(平起式六麻)

(意解)

摩耶山仏日寺に梅花を訪ねた。枝上に鶯の声も聞こえ、静かで一段とよい。十六基の麻田藩主歴代の墓、樹木の下で、藩侯の遺業を誰に向かつて誇ろうか。

摩耶山佛日寺は池田市畑一丁目にあり、旧摂津国麻田藩主の菩提寺で、付近の秦野の地は梅林で有名で、かつては花見客でたいそう賑わいました。現在、梅林は住宅地に変貌し、その面影は仏日寺の境内に残すのみとなっていました。

だるまさん、集めてます。ご不要なだるまさん(置物など)お寺へ譲ってください。

貞享二年(一六八五)北摂三十ヶ所観音霊場二十七番に選ばれ、『秦野なる梅咲く寺のみ仏のたかきめぐみを あおぐ今日かな』との御詠歌も伝わっています。

二代藩主青木甲斐守重兼侯が、寛永七年(一六三〇)摂津国麻田村東方天王山山麓に前身の『松隣寺』を建立し、承応三年(一六五四)に現在の地に移転し、本堂・禅堂・方丈・山門・鐘楼等を建立しました。その後、黄檗宗祖隠元禅師の来朝を機に、万治二年(一六五九)に富田村の普門寺に逗留していた同禅師を仏日寺開山として招請し、観光山摩耶寺と号しましたが、すぐに佛日寺と改称しました。

寛文元年(一六六〇)に、重兼侯五十五歳の時、隠元の法嗣慧林禅師(黄檗山三代住職)を仏日寺二代住職に招き寺領二百石を喜捨して麻田藩主青木家の菩提寺としました。当時の境内は、二町六反三畝二百歩を有し、本堂の他に二十九宇の存する大伽藍で、寺門隆昌を極め、北摂の一大禅刹でした。青木重兼侯は、寛永十八年(一

六四一)京都御室仁和寺の造営奉行となり、次いで寛文三年(一六六三)摂津川辺郡多田院再興の奉行、万治元年(一六五八)には、將軍家綱公の請に応じて、龍溪禅師とともに、隠元禅師東下を勧めています。

寛文七年(一六六七)黄檗山の大宝殿(本堂)が建立されるにあたり、黄檗山の造営奉行に任ぜられ、この時山内に二不庵を建立、留雲亭を構えて住しました。

寛文十年(一六七〇)には開基として江戸白金台に紫雲山瑞聖寺を建立、江戸の触頭寺としての格式を持ちます。

寛文十二年(一六七二)に隠居し『端山』と号して、麻田に住みまし。延宝七年(一六七九)春七十四歳の年に黄檗山二代木庵禅師について出家し、河辺郡多田庄末吉村に大覚山方広寺を建立、道号を端山、法諱を性正として、『黄檗宗鑑録』に登載されていないが、居士ではなく僧として嗣法しています。

佛日寺は、明治維新による廃藩置県・版籍奉還によって寺禄が絶え、明治五年(一八七二)境内地は減じ、堂宇の大部分が縮小しました。さらに、同二十九年(一八九六)暴風豪雨のため堂塔伽藍が倒壊しました。その後再興しましたが、昭和二十一年(一九四六)農地改革で、寺領のほとんどと食料増産に協力し田畑にした境内地を失い窮地にたたされましたが、昭和四十三年(一九六八)

に明治百年を記念に近代的なお寺に生まれ変わりました。また、阪神大震災で、唯一創建当時の鐘楼門が倒壊し、大震災犠牲者六千人の慰霊塔となるべく、翌年に威風堂々とした鐘楼門が完成しました。

南林墓地には初代から十六基の墓塔(池田市史跡名勝・天然記念物に指定)が石垣と樹木に囲まれ景観を保っています。近鉄、中日、楽天、DeNAのプロ野球選手として活躍した中村紀洋選手の母校の大阪府立渋谷高等学校は、旧佛日寺の境内地にあります。



摩耶山 佛日寺 山門

墓地管理費のご納付をお願いします。墓参りの折、郵便振込みでも結構です。



檀信徒の皆さまへ

『坐禅と除夜の鐘』 報告



開催日 昨年大みそか
天気 晴れ
参加者 五十名以上

段々と定着してきた大晦日の「坐禅と除夜の鐘」。地域の方、檀家の皆様、総勢50名以上がご参加してくれて、楽しく新年を迎えることができました。本年も様々な行事にチャレンジしていきたくと思っています。どうぞ宜しくお願ひ致します。

(副住職)

大阪市仏教青年会
花まつり子ども大会
日時：4月5日(火)
13時～16時
場所：クレオ大阪中央
(天王寺区上汐1-1-1)

参加無料 おみやげプレゼント

副住職が監事を務める大阪市仏教青年会。ここでの昔からの行事です。劇団カッパ座さんによる『そんごくう』という劇も鑑賞できます。入場無料。春休み中のお子様にはもってこいのイベントです。先着200名様には写真入りキーホルダーをプレゼント。ぜひ、この機会をお見逃しなく！(別紙参照)



行事予定

2/11 写経と精進料理の夕べ
主催：大阪市仏教青年会
四天王寺客殿を利用したの写経会です。参加費三千元。

3/23 山門会(春のお彼岸法要)
(別紙参照)

3/26 写経会 15時～参加費千円
(別紙参照)

4/8 花まつり甘茶接待(西区仏教会九条駅前での甘茶の接待です。)

5/15 坐禅de
チャリティーミニバザー
13時～
(別紙参照)

5/15 坐禅de
お寺deヨガ
14時～
(別紙参照)

6/4 坐禅de
はじめての坐禅
16時～
(別紙参照)



平成28年 年忌早見表

年 忌 早 見 表			
年 忌	寂 年	年 忌	寂 年
1周忌	平成27年	17回忌	平成12年
3回忌	平成26年	25回忌	平成4年
7回忌	平成22年	33回忌	昭和59年
13回忌	平成16年	50回忌	昭和42年

募 集

お寺deヨガと同日に、チャリティーミニバザーを行います。そこで、ご協力のお願ひです。

自宅に眠ってる
不要なモノを当院まで
お預け下さい

永代供養墓 だいきじょうそん
大亀地蔵尊
当院が永代に管理供養し、無縁仏とならないお墓で、遺族・ご家族にも安心して頂けます。
宗旨・宗派は問いません
●ご縁のある方のご遺骨をお預かりの方
●墓地を整理してお骨を移したい方
●お墓の継承者がいない方

永代要加金
一霊30万円/二霊50万円
併せて永代祀堂位牌(2万~6万)が必要となります。(管理料は不要)

きゅうどういん
黄葉宗(禅) 九島院
霊亀山
TEL. 6583-2725 西区本田3丁目4番13号
http://kyutouin.or.jp

新規境内墓地もあります

墓地管理費のご納付をお願いします。墓参りの折、郵便振込みでも結構です。

スピーチ

「スピーチとスカートは短いほうがよい」との名言があります。だらだらと長々しゃべり倒されるスピーチには本当に閉口します。

昨秋檀家の娘さんがお寺へ嫁がれ、小生が花嫁の主賓として、披露宴で祝辞を述べる大役を引き受けました。

「新婦はお寺という全く新たな生活に入られます。新郎は寺庭婦人という重責を背負われる新婦を支えてあげてください。」とスピーチをし、自作の漢詩を詩吟で披露し3分ほどにまとめました。

緊張で詩吟はボロボロでしたが、お寺の名前の常福寺を読み込み『鴛鴦喜溢此開筵 為婦為夫是佛縁 相援相勸同甘苦 寺門常福届先年 (おしどり夫婦が喜び溢れ華燭の宴を開く、婦となり夫となるは是れ仏縁である。相助け相励まして苦楽を共にすれば、お寺は寺名のように常に福となり先年に到らん)』

随分と前のことですが、某檀家のお祖父さんが九十九歳を迎え、白寿のお祝いを正月二日にホテルで行うのでと招待を受けました。この時は、簡単な祝辞を述べ、都々逸を披露しました。

お祖父さんのお名前『まさお』を読み込み、色紙にこの都々逸と鯛の絵を書き進呈しました。『松のうちから誘われ嬉し 親爺白寿でおめでたい』

朝礼での校長先生のお話が長くて、うんざりした経験は誰しももっています。また、お腹が減っているのに長々と挨拶をされ、早く終われと心で呟いたこともあるのではないのでしょうか。

小生は『相合傘』という川柳句会の同人ですが、主催の中田昌秀先生のお祝いの立食パーティーで、『宴会』という句題が出ました。その時の気持ち詠んだのが、次の川柳です。

『乾杯の挨拶耳に、目は料理』

よほどの名スピーチでない限り、聴衆もきっと、挨拶を聞かず、それぞれの思いで話が終わるのを、じっと待っておられるのではないのでしょうか…。



九島院のフェイスブックページを作りました！検索してみてくださいね！

奉納便り

○金参拾萬円御寄進 (平成廿七年十一月二十九日) 梶山美咲子様より、「主人様のご冥福を祈り寄進されました。

○金伍萬円御寄進 (平成廿八年一月十三日) 萩原勝代様より、慈光堂改修工事へのご寄付を頂戴しました。

編集後記

▼年末年始は本当に暖かく、凜とした感じがしませんでした。

▼一月二日、檀家の奥さんの実家のお兄さんが急逝されました。毎年恒例の温泉旅行での旅先、朝風呂に子や孫と入ったが、出てこないで戻ったら、風呂場で倒れていたそう、大動脈瘤破裂で帰らぬ人となられたそう、温泉水旅行で寝起きに浴衣を羽織って朝風呂に行くのは気持ち良いものです。遅くまで飲酒し睡眠も浅く、そして朝風呂は健康によくありません。故人は、思い残す事もないほど精一杯仕事に打ち込まれたそうで、満足だったのではと周りの人は言っているそうです。▼テレビ番組で『人は何のため働くのか』のテーマで、難病の若年性パーキンソン病の力

リスマ社長の生き様を扱っていました。▼「自分の病気がなければ社員は今以上に給料も上がるし、残念だ」との社長の言葉こそ、仏教という利他行そのものでした。▼昨年十一月に亡くなった愛犬ミニチュアダックスのケイちゃん(十四歳)も、私ども家族を癒してくれました。▼自身よりも、周りの人のため生かされているのじゃないかと思えます。(住職記す)▼新年おめでとございます。今年から長男が幼稚園にお世話になります。▽長女、次女は小学生なので、再び幼稚園との関わりを持てるのが楽しみです。(副住職記す)

山門会 (春彼岸法要)

3月23日(水)

午後1時半より

※ご先祖供養 宗旨に関係ありません※
ご回向お申込み下さい。

清興: 講談 女流講談師『旭堂 南華』

墓地管理費のご納付をお願いします。墓参りの折、郵便振込みでも結構です。